高知県立大学　看護学部　学生生活通信　2023年2月　第24号

fure-fure

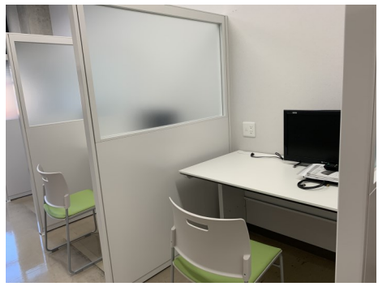
教育環境の整備：自己学習室について

田中雅美 先生、徳岡麻由 先生

看護学部では、学生の主体性を育む環境や仕組みづくりに取り組んでいます。Covid-19の感染拡大を受け、本学部でも遠隔授業が多く取り入れられるようになり、学生にはリモートや対面などの多様な授業形態を組み合わせた学習時間の管理が求められるようになりました。一方で、学生に提供されている学習スペースでは発声が制限されるため、ディスカッションを含むリモート授業を受講するために学生が自宅に戻るなど、リモート学習環境へのニーズが高まっている状況がありました。

そこで、学生が自宅に戻ることなく、学内での自由時間を活用してリモートによる様々な自己学習ができるように、リモート対応の自己学習室を整備しました。自己学習室では、個人の端末機器を用いたリモート授業の受講やグループワーク、web教材を使った学習、室内設置の視聴覚教材の視聴ができるようになっています。室内はパーテーションで区切られた個人ブースで最大12人の学生が使用でき、落ち着いた環境で自己学習することができます。自宅や離れた場所からでも座席予約状況の確認と予約ができるようweb予約制度を導入し、使用方法マニュアルの作成と各学年への周知を行い、今年度より自己学習室の運用を開始しました。4～5月の年度初めには、通信環境がまだ整っていない1回生が優先利用できるように配慮し、以降はどの学年も自由に使用できることをアナウンスしました。利用した学生からは「すぐに教室の空き状況が分かり便利」、「使ってみたら思った以上に集中して学習できた」などの声が聞かれており、コンスタントに利用している学生も増加しています。

今後も、学習室の利用促進を図り、適正な自己学習環境の整備に努めていくことで、学生の自律的な学習を支援していきたいと考えています。

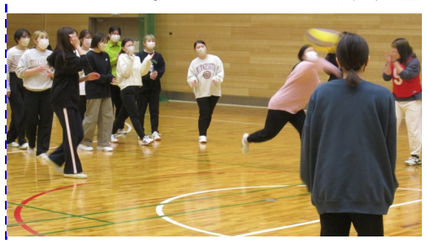


学生の活動

【学生交流会を開催して】

4回生 懇話会委員一同

1年間を通して取り組んだ看護研究論文の作成が12月上旬に終了し、束の間のリフレッシュと、国家試験まで4回生全員で団結して頑張ろうという意味を込めて懇話会を企画しました。絆が深まった看護研究のチーム対抗で1位から3位の優勝景品をかけて戦いました。競技は、3～4つの卒論グループが1つのチームとなり戦うドッチボール、卒論グループ対抗のじゃんけんリレー、イントロドンの3競技でした。短い時間でしたが、全ての競技で盛り上がり笑顔が溢れる楽しい時間となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中々集まる事ができなかったため、卒業前に開催することができて良い思い出になりました。2月にある保健師、助産師、看護師の各国家試験まであと少しとなりましたが、4年間この仲間と共に頑張ってきたことを糧に最後まで頑張り続けたいと思います。



【大学祭に参加して】

1回生　岡　真未

県立大学のダンスサークルは、2022年のインカレをきっかけに設立しました。普段は高知大学のダンス部と合同で練習を行っています。活動日は主に火曜日と木曜日の週2回で、イベントが近くなると週末にも練習をしたり、練習時間を延長したりしています。

今年3年ぶりに開催された紅葉祭では、高知大生も含めた25人でステージに立たせていただきました。新型コロナウイルスの関係で中止されたイベントもありましたが、その分約一年間を通して一生懸命頑張ってきた成果をステージで出すことが出来たと思います。紅葉祭でのステージの中でも、一番初めのステージは県立大1回生の3人でダンスを披露させていただきました。想像以上の観客で緊張やプレッシャーもありましたが楽しんで踊ることができ良いスタートが切れた気がします。来年度の紅葉祭でもステージに立てることを願っています。

〔ニュースレターの名前の意味〕fure-fure　学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。　fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp

学部生へのメッセージ　　学長:野嶋佐由美 先生

心よりの感謝と応援の気持ちを込めて❝フレ～フレ～❞

看護学部・看護学研究科の学生の皆様の努力に敬意と応援を表すとともに、ご支援くださっているご家族等の皆様に感謝申し上げます。学生の皆様は優秀で高い能力を持っていて、様々な課題に対して真摯に向き合い、確実に力をつけていると思っています。「県大の看護の学生は素敵ね、頑張っているね、優秀だね」等々とよく耳にします。そのたびに誇らしくうれしく思っています。皆様は自覚していますか？ぜひ自覚し、自信を持ってください。

皆様は、大学の自慢の種です。看護を目指す皆様方は、命の重みに対峙する事が多く状況や自己を冷静に分析し自己批判することが求められています。それ故に自己に対して、周辺に対して、慎重で否定的な姿勢をもつこともあります。しかし、そのような中でも肯定的に捉え、肯定的なメッセージを発信していく看護学生、看護者になって頂きたいという願いを込めて、みんなに、そして、自分自身に対して応援を送っていこうという趣旨で、この❝フレ～フレ～❞があると思っています。多くの哲学者や理論家が「肯定的に捉えることがパワーにつながり物事を転換することができる」と言っています。

看護学部のなかに脈々と流れている姿勢として、最後まで考え続けることがあります。この姿勢も患者さんと対峙する中で学んでいく姿勢だと思います。答えは一つではない、患者さんの立場から、家族の立場から、保健医療従事者の立場から、地域の立場からじっくりと考えて、最適な答えを探していこうとする思考方法を修得していきます。研究においても同様に先行研究を多面的に検討し、複数の視点から研究を推進しています。皆様は、実践でも研究でも、最後まで考え続け考えを洗練化する習慣を修得していると思っています。

さて私事ですが、長年お世話になりました高知県立大学&看護学部の2度目の卒業を迎えることになりました。大学卒業後も、恩師となる先生方から、キャリアの節目節目に声をかけていただき、社会学修士課程に、さらにアメリカの看護学博士課程で学び、母校である高知女子大学に帰ってきました。今思うことは、母校からの継続的な暖かいフレーフレーによってキャリアを歩むことができたこと、そして、学生さんには人生も、キャリアも継続していることを忘れないでほしい、無駄なことは何一つありませんので。あなたが身を置くその場その場で学び、自己を磨いていってほしいと思いつつ、最後に皆様方に心よりの感謝と応援の気持ちを込めて❝フレ～フレ～❞です。

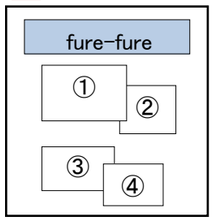
日本災害看護学会第24回年次大会の開催　　大会長:竹崎久美子 先生

日本災害看護学会は、1995年の阪神淡路大震災をきっかけとして、「災害看護に関する知識体系の確立」「活動体制や国際的研究ネットワークの開発」「災害看護学の教育の体系化」などの諸課題に体系的に取り組むため、設立された全国学会です。当時の設立発起人代表は、前学長で本学の卒業生でもある南裕子先生で、高知県での大会の主催は2004年本学の山田覚先生が「連携」をテーマに大会長をされた第6回大会以来となりました。本学は1998年の「’98豪雨」と呼ばれた豪雨災害以後、県下の災害看護の連携と発展に貢献してきた経緯があり、さらに2011年東日本大震災以後は、災害看護グローバルリーダー養成の博士課程を設置するなど、災害看護に関しては全国的にも屈指の牽引大学です。第24回年次大会も、長年災害看護を推進してきた本学のとりくみや、県民挙げて南海トラフ地震に備えている高知県のとりくみが注目されての開催依頼でした。

第24回大会は「今、改めて準備期の災害看護を考える―住み続けられるしくみづくりのために―」をテーマとし、全国から「災害への備え」「降雨災害対応」や2019年以降猛威を振るっている「新型コロナウィルス感染症対応」に関連した演題など、88題の発表がありました。その中で、大会初の試みとなる現役大学生主催による交流集会もありました。本学の災害関係のサークル３つのメンバーが中心となり、活動している自分たちの志や、学部生が地域の防災活動に参画することの意義などについて意見交換したほか、全国の他大学の学生防災サークルを紹介してくれました。

大会が開催された2022年8月から9月にかけては、全国的にも新型コロナウィルス感染症第7波の真っただ中であり、残念ながらWEBによるオンライン開催となりました。参加者に高知県を訪れていただくことはできず残念でしたが、最終参加登録者は780名と盛会の内に終了することができました。

表紙の写真



①2回生：懇話会の様子
②1回生：学内演習の様子
③3回生：学内実習の様子
④4回生：壮行会の様子

各学年の大学生生活

■1回生■

1回生は、前期に引き続き講義や演習を通して看護についての学びを深めています。演習では講義で学んだ知識を活用しながら、学生同士で患者役や看護師役を体験したり、患者役の教員を相手に援助を実施し、どうすれば患者さんにとってよりよい援助になるのか試行錯誤を重ねています。また、12月と2月に初めての実習となる「ふれあい看護実習」がありました。実習では、地域で暮らす高齢者や宅老所の職員からお話をうかがい、自分とは異なる世代の人々の生活や健康観を知るとともに、専門職としての基本的な態度や適切なコミュニケーションの取り方についても学びを深めました。

コロナ禍ではありますが、自らの健康を管理しながら学内外の課外活動にも参加し、それぞれの目標に向かって取り組んでいます。

■2回生■

2回生は、医師からの疾患や治療に関する授業、急性期看護・慢性期看護というような専門的な看護の授業を受け、疾患を持つ患者への看護の学習を進めています。また、2回生は、地域課題に対して主体的に計画・取り組む「地域学実習Ⅱ」および「看護地域フィールドワーク」という科目も履修しています。この科目において学生は、地域の医療専門職へのインタビューや高校生とのワークショップを通して高知県における医療の課題を考察することや、高齢者への脱水症予防の教育動画の作成など、幅広い活動をしています。興味のある方は、大学のHP（https://www.u-kochi.ac.jp/site/aeru/20221125.html や、健康長寿センターのYouTubeチャンネル（https://www.youtube.com/@user-xf9jd7ip8h）をご覧ください。

そのような中、11月に、学生と教員との交流を目的とした親睦会を開催しました。親睦会委員の企画したゲームやクイズを楽しみながら、普段、話す機会のないクラスメートとも交流を深めました。コロナ禍で制限の多い学生生活を送っていた2回生にとって、初めてクラス全体で楽しむ機会となりました。

■3回生■

3回生は、昨年10月から領域看護実習に取り組みました。実習では、3回生前期までの学びを基盤として、人々の多様な生き方や価値観を理解しながら、尊厳と権利を尊重した看護実践に取り組みました。１月からは、病院での学びを学内実習でさらに深め、健康問題を科学的思考、問題解決能力を用いて解決すること、地域で暮らす方も含め、人々の健康的な生活の向上を図るための看護を展開する能力の獲得を目指しています。患者さんとご家族、地域の皆様、看護師、保健師、助産師の方々から多くの刺激を受けて、学生一人一人が専門職業人として自主的・主体的に考えて行動する力も備わりました。

2月には、自分の将来像も少しずつ明確となっている3回生に向けて、キャリア発達のための就職活動や国家試験対策のガイダンスが行われます。これから、本格的に始まる就職活動について具体的に考え始めるとともに、1年後に迎える看護師、保健師、助産師国家試験に向けて、授業や看護師国家試験模試、自己学習で専門的知識を積み上げていきます。

■4回生■

4回生は11月まで看護実践能力開発実習と在宅看護実習に臨み、4年間で行うすべての臨地実習を終えました。11月中旬には国家試験の受験申請を行いました。そして12月初旬には、1年間かけて行ってきた看護研究を論文としてまとめ全グループ提出しました。残すゴールは看護師・保健師・助産師国家試験の合格です。

左の写真は2月に開催された国家試験壮行会時のものです。4回生はこれまで自分にあった学習方法を模索しつつコツコツと学習を続けてきました。何回も国家試験模試の受験とその振り返りを行い、学習会への参加などに取り組んできました。それぞれの学生が4年間で培った力を国家試験本番で発揮できるように、そしてその先の夢の実現に向けて走り続けています。